

「介護福祉士養成課程における教育内容等の  
見直し作業チーム」中間まとめ  
(参考資料)

科目と教育内容のイメージ

- 本資料は、「介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しに関する作業チーム」各班（「人間と社会班」「介護班」「こころとからだのしくみ班」）においてカリキュラムを検討する際にイメージを掴むために作成したもの。
- 各班におけるこれまでの議論を踏まえ、事務局においてまとめたものであり、介護福祉士の養成に係る教育内容等については、引き続き、「介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しに関する作業チーム」各班において検討を重ねることとする。

○人間と社会	1
○介護	2
○こころとからだのしくみ	6

「人間と社会」の科目と教育内容のイメージ

	教育内容	教育目標	主な内容
人間と社会 60時間以上	人間の尊厳と自立 (30時間以上)	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応するための基礎となる能力を養う	「人間」の多面的理解 自立・自律している人間像 自立・自律していない人間像 尊厳ある状態と自立・自律への支援 介護実践における尊厳の保持(事例学習)
	人間関係とコミュニケーション (30時間以上)	介護実践のために人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を習得する	人間理解のための情報 人間関係の形成とコミュニケーション 情報の伝達に関するIT技術の活用方法 記述表現の技術
	生活と福祉 (15時間以上)	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の	人間の暮らしの単位としての個人、家族、近隣、地域、企業、社会、国家等
	社会保障制度総論 (15時間以上)	我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する	高齢者や障害のある者に関する社会的状況 社会保障の基本的な考え方(保障の目的、実施主体、対象、方法、費用負担等) 社会保障の歴史 社会保障の基本的しくみ
	介護保険制度と障害者自立支援制度 (15時間以上)	介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する	介護保険制度創設の背景及び目的 介護保険制度見直しの背景、目的及び基本的視点 介護保険制度の目的 介護保険の保険者と被保険者 介護保険の保険給付と利用者負担 介護保険におけるサービス提供事業者及び施設 介護サービス情報の公表 地域支援事業 介護保険事業計画 介護保険の財政 障害者自立支援制度創設の背景及び目的 障害者自立支援制度の目的 自立支援給付と利用者負担
介護実践に関連する諸制度 (15時間以上)	介護実践に必要なとされる観点から、個人情報保護や成年後見制度及び介護福祉士制度などの基礎的知識を習得する	障害者自立支援制度における事業者及び施設 地域生活支援事業 障害福祉計画 自立支援給付等における費用負担 個人情報保護に関する制度 成年後見に関する制度 消費者保護に関する制度 介護福祉士に関する制度 保健・医療に関する制度 年金に関する制度 生活保護に関する制度 医療保険に関する制度 保健医療に関する制度	
選択科目	<p>○生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習</p> <p>○数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用の理解と数学的・論理的思考の学習</p> <p>○家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習</p> <p>○組織体のあり方、対人関係のあり方、(リーダーとなった場合の)教育のあり方についての学習</p> <p>○現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習</p> <p>○その他の社会保障関連制度についての学習</p>		

「介護」の科目と教育内容のイメージ

科目	大項目	中項目	小項目
介護概論 (180時間)  「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする者」を、生活の観点から捉える。また、介護における安全やチームケア等について理解する	尊厳を支える介護	生活を支える介護	生活を支えること 利用者主体 尊厳のある生活を支えること 個別ケアの考え方 自立支援の考え方 措置制度から保険制度への転換と契約によるサービスの利用 自己決定・自己選択 自己決定を支えるために必要なこと 介護に関するさまざまな考え方 就労支援 集団ケアから個別ケアへ 日課と施設ケア 個別ケアの具体的展開 ユニットケアや小規模多機能介護拠点の制度化 リハビリの基本的考え方 潜在能力の活用 介護予防 個別リハビリ 介護保険におけるリハビリテーション ノーマライゼーションの基本的考え方 バリアフリーからユニバーサルデザインへ 尊厳の保持 居場所とアイデンティティー 生活の場 住まい 自宅でない在宅を含めた居宅の考え方 居室の個室化 日常生活圏 ユニットケアと空間の階層 高齢者住宅 住み慣れた地域での生活の継続性の維持 ノーマライゼーション ユニバーサルデザイン
	対象の理解	対象の理解	日常生活の状況 生活歴の把握 習慣や趣味・嗜好、余暇活動 交友関係や社会活動の状況 家族背景と生活様式 居住環境 ICFの考え方 QOL ケアプラン 要介護認定とケアプラン 障害の場合 家族の状況と介護力 自立生活の障害となっている原因の特定 施設 居宅(訪問系、通所系、一時入所系)サービス 自宅でない在宅としての居住系サービス 施設サービス 地域密着型サービス
介護技術	介護サービスの提供	介護サービスの特徴	チームアプローチによるサービスの提供と他職種との理解 チームアプローチの意義と目的 他職種協働とケアマネジメントのしくみと流れ ケアマネージャーとその他のサービス担当者の関係 訪問看護師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 保健師 医師 社会福祉士 権利擁護関係者 ボランティア 市町村、都道府県 地域支援事業 地域包括支援センター 災害時の対応 地域の災害ネットワークシステム 介護者の健康管理 感染管理 感染防止法 従事者の健康管理 成年後見人制度 身体拘束禁止 個別ケア 契約に関する法的事項
	安全の確保とリスクマネジメント	事故防止と安全対策	地域連携
コミュニケーション技術 (60時間)  介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは他職種との協働におけるコミュニケーション能力を身につける	倫理的問題	権利擁護 プライバシーの保護	
	人間関係の形成とコミュニケーション	人間関係形成の過程	説明と同意
	人間関係の形成とコミュニケーション	介護場面における利用者・家族への対応	自己知覚 他者理解 関係の成立 関係の成立 納得と同意 安心させること 意欲を引き出すこと 相談、助言、指導 利用者の状態に応じたコミュニケーションの方法 感情表現の理解 言語的コミュニケーションの技法 非言語的コミュニケーションの技法 受容 共感的態度 傾聴 自己開示 気づき、洞察力 記録の意義、目的 介護の記録の種類 記録の管理 個人情報保護 情報の共有
	介護の場における記録・報告	介護記録と情報の共有化	

科目	大項目	中項目	小項目
		介護職者、他職種との連携に必要なコミュニケーション	<p>報告の意義、目的 報告の方法と留意点 サービス担当者連絡会議、ケースカンファレンス、事務所内連絡会議、委員会 連携の意義 報告・連絡・相談 看護師、PT、OT、医師、ケアマネージャー</p>
<p>生活援助技術</p> <p>(300時間)</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する</p> <p>介護技術</p>	日常生活援助に必要な介護技術	自立に向けた居住環境の整備	<p>環境整備の意義と目的 ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 居住環境の整備に関する生活機能を向上させる視点 快適な室内環境の確保(換気、温度・湿度、音、光など環境工学的性能) 安全性への配慮 住宅改修 浴室、トイレ、台所等の空間構成 プライバシーの確保と交流の促進 施設等での集住の場合の留意点 生活の場の整備 ユニットケア 居室の個室化 環境づくり</p>
		自立に向けた身じたくの介助	<p>洗面に必要なアセスメント ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 身じたくに関する生活機能を向上させる視点 好みへの配慮 洗面設備の工夫 用具の工夫、福祉用具の種類と選択・使用方法 介助が必要な部分の判断 全介助の方法と留意点 ひげそり 爪切り 耳そうじ 衣服着用の目的 ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 衣服着脱に関する生活機能を向上させる視点 好みへの配慮 状況・状態に合わせた衣服の選択 用具の工夫、福祉用具の種類と選択・使用方法 着脱しやすい衣服の工夫 介助が必要な部分の判断 全介助の方法と留意点 食事の意義と目的 ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 食事に関する生活機能を向上させる視点 食事を楽しむための食卓の環境づくり 食事を楽しむ、味わうことへの視点(食習慣、嗜好品、好みへの配慮) 用具の工夫、福祉用具の種類と選択・使用方法 調理方法の工夫、食事形態、食事量、食事時間の工夫 食べやすい姿勢の工夫</p>
		自立に向けた食事の介助	<p>・座位 ・椅子とテーブルの高さ ・臥床時のベッドの角度、首の角度 介助の位置、配膳の位の工夫 介助が必要な部分の判断 外食時の留意点 全介助の方法と留意点 ・食事の機能が低下している場合 ・感覚機能が低下している場合 ・運動機能が低下している場合 ・認知・知覚機能が低下している場合 脱水の予防のための日常生活の留意点 誤嚥、窒息の防止のための日常生活の留意点 医療との連携が必要な点 吐き気・嘔吐 便秘・下痢 誤嚥 経管栄養、胃ろう 食事の制限 内服時の留意点 インスリンの基礎的理解 低血糖・高血糖時の応急処置 窒息時の対応</p>
		自立に向けた口腔の清潔の介助	<p>口腔を清潔に保つ意義と目的 ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 口腔の清潔に関する生活機能を向上させる視点 用具の工夫、口腔ケア用品、福祉用具の種類と選択・使用方法 介助が必要な部分の判断 全介助の方法と留意点 ・ブラッシング法 ・うがい ・うがいができない場合の口腔ケア ・義歯の手入れ 医療との連携が必要な点</p>
自立に向けた排泄の介助	<p>排泄の意義・目的 ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 排泄に関する生活機能を向上させる視点 羞恥心への配慮 着脱しやすい衣服の工夫 オムツの選択 尿器、便器の種類と選択・使用方法 身体機能の低下に配慮されたトイレ 用具の工夫、福祉用具の種類と選択・使用方法 介助が必要な部分の判断 全介助の方法と留意点 ポータブルトイレでの排泄 オムツでの排泄 採尿器での排泄</p>		

科目	大項目	中項目	小項目
介護技術		自立に向けた移動の介護	差し込み便器での排泄 医療との連携が必要な点 失禁時の介護の留意点 尿回数が多い人への介護の留意点 下痢への対応 便秘への対応 尿路感染 安全・安楽な姿勢と体位の保持の目的と意義 ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 移動に関する生活機能を向上させる視点 移動行為の目的・目標づくり 余暇活動、社会活動への参加 用具の工夫、福祉用具の種類と選択・使用方法 着脱しやすい履き物の工夫 生活の場での身体機能向上の訓練 介助が必要な部分の判断 全介助の方法と留意点 体位変換 姿勢と体位の保持 安全な移動と移送の方法 転倒・転落防止の留意点 医療との連携が必要な点 拘縮 褥瘡 意欲を引き出す工夫（コースの発掘、生活リズムと生活習慣、余暇活動）
		自立に向けた家事の介助	利用者の状態に応じた外出の介護の方法 家事の意義 ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 調理に関する生活機能を向上させる視点 調理器具の選択・使用方法 用具の工夫、福祉用具の種類と選択・使用方法 加工食品の活用と保存 配食サービスの利用 介助が必要な部分の判断 基本的な食事づくりの方法 好みへの配慮 栄養 献立づくり 味つけの工夫 調理の工夫 食べやすさの工夫 掃除・ごみ捨て 洗濯 衣類・寝具の衛生管理 裁縫 買い物 生活の経営、家計、買い物の管理
		自立に向けた入浴の介助	入浴の意義と目的 ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 入浴に関する生活機能を向上させる視点 プライバシーの保護 浴室の改修 身体機能の低下に応じた浴槽の選定 用具の工夫、福祉用具の種類と選択・使用方法 着脱しやすい衣服の工夫 介助が必要な部分の判断 全介助の方法と留意点 入浴 シャワー浴 洗髪 全身清拭 陰部洗浄 足浴・手浴 転倒・転落の予防 やけどの防止 体力消耗の予防 脱水の予防
		睡眠の介助	睡眠の意義・目的 ICFにもとづく利用者の状態のアセスメント 入浴に関する生活機能を向上させる視点 適切なベッドの選択 環境づくり 生活リズム 寝具の選択・工夫 介助が必要な部分の判断 不眠時の対応
	終末期の理解と介護の	尊厳の保持 医療との連携	終末期ケアの体制 事前意思確認 チームケアにおける役割と情報の共有 具体的なチームケアの進め方 家族の参画 穏やかな終末期を過ごすための環境整備 家族へのおくやみと死後の対応 応急手当 救命手当 医療者との連携が必要とされる場面
介護過程 (150時間)	介護過程の理解	介護における目的と目標 介護過程の展開	目的 目標 目標設定のプロセス 生活活動の目標 ニーズ 利用者・家族の希望 情報収集の目的と方法 情報分析 利用者の全体像 課題の明確化 目標の設定
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を			

科目	大項目	中項目	小項目
介護 技術		生活場面と介護過程	計画 5w1h チームケア  実施・評価 記録の共有、活用 自立度に応じた介護の展開 生活の場所に応じた介護の展開 ライフサイクルに応じた介護の展開
	介護総合演習 (120時間)  実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習 実習	実習の理解	実習の意義 実習の進め方   介護過程の実践的展開
実習	(450時間)  実際の対象者について介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。また、居宅や施設等における実際の介護サービスの提供における多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する		

「こころとからだ」の科目と教育内容のイメージ

科目	大項目	中項目	小項目
発達と老化の理解 (60時間) 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得す	人間の成長と発達 基礎的理解	人間の成長と発達 老年期の発達と成熟 老化に伴うところの変化の特徴	発達のさまざまな理論 乳幼児期 児童期 成年期 成人期 老年期 成長と発達における高齢期のとらえ方 老年期の定義(WHO、老人福祉法、老人保健法の老人医療制度) 老年期における発達と成熟 人格と尊厳 役割 喪失体験 セクシュアリティ 経済・収入の状況 高齢者の人生と経験 高齢者の生活史 高齢者のうつ ひきこもり 葛藤・精神的緊張の緩和 人格の変化 生活範囲の縮小 喪失 老いを受けとめる高齢者の気持ち 配偶者・友人との別れを受け止める高齢者の気持ち 人格の変化と発達 からだの機能の変化
	認知症の基礎知識	認知症を取り巻く状況の理解 認知症とは 認知症ケアの基本的考え方 認知症の人の潜在能力 認知症の人とコミュニケーション チームケア なじみの環境と地域 地域におけるサポート体制 家族への支援	認知症ケアの歴史 家族支援の重要性 作られた障害 小規模ホーム、グループホーム、個別ケア 認知症に関する行政の方針と施策 認知症の原因となる病気とその特徴(アルツハイマー病、脳血管性認知症、若年性認知症) 解明されている発症の機序 若年性認知症の特徴 中核症状と周辺症状 老化によるもの忘れと認知症の違い 認知症とうつ病の違い 認知症とせん妄の違い 軽度認知障害(MCI) 認知症の予防 認知症の人の介護の原則 相手の立場に立つ 利用者本位の視点 個別ケア 保たれる能力と低下する能力 認知症の人とコミュニケーションをとる技法 多職種協働の継続的ケア なじみの人間関係と居住環境 地域で暮らし続けること 小規模多機能型サービスとグループホーム 高齢者住宅の政策動向と新しい住まい方 地域包括支援センターの役割 コミュニティ・地域連携、町づくり ボランティアや認知症サポーターの役割 家族の気持ちの理解 家族の介護力の評価 家族の認知症への受容の過程での援助 家族のレスパイト 社会資源の活用 一般国民へ向けた啓発活動 様々な障害に関する考え方 障害者福祉の基本的理念とノーマライゼーション 歴史的展開(国際障害者年等の社会的動き) 障害の特性 状態像の理解 状態像と生活機能の関係 障害が及ぼす心理的影響 障害の形態と心理的影響 障害の受容 適応と適応規制 心理的・物理的・文化的・経済的・制度的バリア 障害者の自立と自立支援 就労支援 社会復帰 障害のある人の生活ニーズ把握の視点 生活を支える基盤(各種年金制度、生活保護、介護保険) 生活を支えるサービスの現状と課題 地域移行支援と居住支援、 補助具や福祉用具の利用 住居の改装 地域自立支援協議会 視覚障害の概要 視覚障害による不自由さ(不自由さの連鎖) 視覚障害による心理的影響 聴覚障害、言語機能障害の概要 聴覚障害、言語機能障害による不自由さ(不自由さの連鎖) 聴覚障害、言語機能障害による心理的影響 肢体不自由の状態像と原因 肢体不自由(運動機能障害)と関連領域の知識 肢体不自由による心理的影響 内部障害に関する特性と対応 内部障害を伴う重複障害 内部障害と関連領域の知識 内部障害を伴う重複障害 保健・医療関係者等との連携 家族への支援 精神障害のある人の理解 精神疾患および行動被害の特徴 地域で支える援助者の視点と連携 精神障害者を支える地域リハビリテーション 精神障害を伴う重複障 保健医療福祉の連携 家族への支援 知的障害の定義と障害程度 知的障害のある人のノーマライゼーションの実現 知的障害を伴う重複障害 家族への支援
認知症の理解 (60時間) 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視	認知症の人に対する介護の留意点 家族への支援	認知症ケアの基本的考え方 認知症の人の潜在能力 認知症の人とコミュニケーション チームケア なじみの環境と地域 地域におけるサポート体制 家族への支援	認知症ケアの歴史 家族支援の重要性 作られた障害 小規模ホーム、グループホーム、個別ケア 認知症に関する行政の方針と施策 認知症の原因となる病気とその特徴(アルツハイマー病、脳血管性認知症、若年性認知症) 解明されている発症の機序 若年性認知症の特徴 中核症状と周辺症状 老化によるもの忘れと認知症の違い 認知症とうつ病の違い 認知症とせん妄の違い 軽度認知障害(MCI) 認知症の予防 認知症の人の介護の原則 相手の立場に立つ 利用者本位の視点 個別ケア 保たれる能力と低下する能力 認知症の人とコミュニケーションをとる技法 多職種協働の継続的ケア なじみの人間関係と居住環境 地域で暮らし続けること 小規模多機能型サービスとグループホーム 高齢者住宅の政策動向と新しい住まい方 地域包括支援センターの役割 コミュニティ・地域連携、町づくり ボランティアや認知症サポーターの役割 家族の気持ちの理解 家族の介護力の評価 家族の認知症への受容の過程での援助 家族のレスパイト 社会資源の活用 一般国民へ向けた啓発活動 様々な障害に関する考え方 障害者福祉の基本的理念とノーマライゼーション 歴史的展開(国際障害者年等の社会的動き) 障害の特性 状態像の理解 状態像と生活機能の関係 障害が及ぼす心理的影響 障害の形態と心理的影響 障害の受容 適応と適応規制 心理的・物理的・文化的・経済的・制度的バリア 障害者の自立と自立支援 就労支援 社会復帰 障害のある人の生活ニーズ把握の視点 生活を支える基盤(各種年金制度、生活保護、介護保険) 生活を支えるサービスの現状と課題 地域移行支援と居住支援、 補助具や福祉用具の利用 住居の改装 地域自立支援協議会 視覚障害の概要 視覚障害による不自由さ(不自由さの連鎖) 視覚障害による心理的影響 聴覚障害、言語機能障害の概要 聴覚障害、言語機能障害による不自由さ(不自由さの連鎖) 聴覚障害、言語機能障害による心理的影響 肢体不自由の状態像と原因 肢体不自由(運動機能障害)と関連領域の知識 肢体不自由による心理的影響 内部障害に関する特性と対応 内部障害を伴う重複障害 内部障害と関連領域の知識 内部障害を伴う重複障害 保健・医療関係者等との連携 家族への支援 精神障害のある人の理解 精神疾患および行動被害の特徴 地域で支える援助者の視点と連携 精神障害者を支える地域リハビリテーション 精神障害を伴う重複障 保健医療福祉の連携 家族への支援 知的障害の定義と障害程度 知的障害のある人のノーマライゼーションの実現 知的障害を伴う重複障害 家族への支援
障害の理解 (60時間) 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得	障害の基礎的理解 障害者に対する介護の留意点 身体障害の理解 精神障害の理解 知的障害の理解	障害とは 障害による心理的影響と自己概念 自立支援に向けて介護 視覚障害の理解と介護の留意点 聴覚障害、言語機能障害の理解と介護の留意点 肢体不自由の理解と介護の留意点 内部障害の理解と介護の留意点 精神障害の理解と介護の留意点 地域での生活を支える連携 知的障害の理解と介護の留意点	様々な障害に関する考え方 障害者福祉の基本的理念とノーマライゼーション 歴史的展開(国際障害者年等の社会的動き) 障害の特性 状態像の理解 状態像と生活機能の関係 障害が及ぼす心理的影響 障害の形態と心理的影響 障害の受容 適応と適応規制 心理的・物理的・文化的・経済的・制度的バリア 障害者の自立と自立支援 就労支援 社会復帰 障害のある人の生活ニーズ把握の視点 生活を支える基盤(各種年金制度、生活保護、介護保険) 生活を支えるサービスの現状と課題 地域移行支援と居住支援、 補助具や福祉用具の利用 住居の改装 地域自立支援協議会 視覚障害の概要 視覚障害による不自由さ(不自由さの連鎖) 視覚障害による心理的影響 聴覚障害、言語機能障害の概要 聴覚障害、言語機能障害による不自由さ(不自由さの連鎖) 聴覚障害、言語機能障害による心理的影響 肢体不自由の状態像と原因 肢体不自由(運動機能障害)と関連領域の知識 肢体不自由による心理的影響 内部障害に関する特性と対応 内部障害を伴う重複障害 内部障害と関連領域の知識 内部障害を伴う重複障害 保健・医療関係者等との連携 家族への支援 精神障害のある人の理解 精神疾患および行動被害の特徴 地域で支える援助者の視点と連携 精神障害者を支える地域リハビリテーション 精神障害を伴う重複障 保健医療福祉の連携 家族への支援 知的障害の定義と障害程度 知的障害のある人のノーマライゼーションの実現 知的障害を伴う重複障害 家族への支援

科目	大項目	中項目	小項目
	発達障害の理解	知的障害の特性とライフステージ別の対応 発達障害の理解と介護の留意点	乳幼児期の課題と援助 学童期の課題と援助 成年期の課題と援助(就労、住居、結婚、育児等) 高齢期の課題と援助 地域生活支援を支える他職種との連携のあり方 発達障害のある人の理解 発達障害の特性と対応 日常生活介護とコミュニケーション 家族への支援 療育支援、人材育成、早期発達支援を担う機関
<p>こころからだのしくみ (120時間)</p> <p>介護技術の根拠となる人体の基礎構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する</p>	<p>介護に活かすためのこころからだのしくみの理解</p> <p>日常生活の活動とこころからだのしくみ</p>	<p>人間の欲求の基本的理解 自己概念と尊厳</p> <p>こころからだのしくみ</p> <p>身じたくの介護に関連したこころからだのしくみ</p> <p>食事に関連したこころからだのしくみ</p> <p>口腔の清潔に関連したこころからだのしくみ</p> <p>排泄に関連したこころからだのしくみ</p> <p>移動に関連したこころからだのしくみ</p> <p>入浴に関連したこころからだのしくみ</p> <p>睡眠に関連したこころからだのしくみ</p> <p>コミュニケーションに関連したこころからだのしくみ</p>	<p>自己概念に影響する要因 自立への意欲と自己概念 自己実現といきがい こころのしくみに関する諸理論(器質的、精神力動的、社会学的な考え方) 思考のしくみ 記憶のしくみ 感情のしくみ 意欲のしくみ 無気力・あきらめの理由 動機づけ 自己効力感 ストレスによるこころからだの変化 ストレスの種類(物理的・生理的・社会的・心理的) ストレスの影響(いじめ、うつ病、自殺) 人間関係のストレスと対処法 ボディメカニクス 介護における体の動きと効果的な体の動かし方 整容の意義 整容・美容の楽しみ</p> <p>食べることの意義と目的 生きるために必要な栄養、水分 からだをつくる栄養素 必要な栄養量 必要な水分量 食欲のしくみ 空腹・満腹 食欲に影響する因子 視覚・味覚・嗅覚 のどが渇くしくみ 栄養が吸収されるしくみ 食べるしくみ、食べることに関する機能低下と障害 食物を口まで運ぶ(視覚の情報、手の機能、姿勢と運動)</p> <p>一機能が障害されるとどうなるか 食物の性質の判断(視覚、嗅覚からの情報、過去の記憶) 食物にあった口の準備(筋肉、神経、唾液の分泌)</p> <p>一口からこぼしやすい場合の理由 咀嚼運動 一バサバサしたものが食べられない 嚥下運動 誤嚥、むせの原因 扁桃性肺炎 生活場面で気づく嚥下障害の徴候 食べ物の好みが変わる(汁物をとらなくなる) 口の中に食べ物をため込んで飲み込まない 食事時間が長くなる 食後に嘔吐してぼ一つとする 口腔内を清潔に保つ意義 口腔の清潔のしくみと、口腔の清潔に関する機能低下と障害</p> <p>口腔状態に影響する要因 口臭のしくみ 排泄の生理的意味 排泄行為の意味 尿の生成のしくみ 排尿のしくみと、排尿に関する機能低下と障害 便の生成のしくみ 排便のしくみと、排便に関する機能低下と障害 便秘 下痢 尿路感染 オムツかぶれ</p> <p>移動行為の意味 重心の移動、バランス 関節の可動域 筋力、骨を強化するしくみ 運動のしくみと、運動に関する機能低下と障害 良肢位 廃用症候群 褥瘡 運動が及ぼす身体への負担 入浴・清潔保持の意義と目的 爽快感、リラックス 皮膚の構造とはたらき 皮膚の汚れのしくみと、皮膚に関する機能低下と障害 入浴が及ぼす身体への負担 睡眠の意義と目的 睡眠時間 睡眠のリズム 安眠 不眠の原因 睡眠のしくみと、睡眠に関する機能低下と障害 コミュニケーションの意義と目的 言葉を読むしくみと、言葉を読むことに関する機能低下と障害</p>